@café

@cafeでは大森にまつわる「ひと」をクローズアップ。編集部がその素顔に迫ります。

江戸時代に始まり、現在も人々に親しまれている落語。多くの噺家によって伝えられ、磨かれていく話芸には、庶民のおしゃべりから生まれたユーモアがぎっしりと詰まっている。共に品川区南大井在住、落語に魅せられ、アマチュア落語家として活動する鹿鳴家おそらさんと、品川亭ゆう笑さんにお話しをうかがった。（取材・文＝丸本文恵）

第45回

アマチュア落語家 **鹿鳴家おそらさん**（かなりや・おそら）　中学生落語家 **品川亭ゆう笑さん**（しながわてい・ゆうしょう）

落語でみつけた宝物

落語家の正装、着物姿で。左が鹿鳴家おそらさん、右が品川亭ゆう笑さん。場所：おおたオーガニックファーム　撮影：高道智子

@ 落語とわたし

今回紹介する二人は、2014年、こらぼ大森の「ポレポレECOまつり」で催された「カフェで落語」に出演したこともある、「今大森で会える落語家」だ。

鹿鳴家おそらさんは、福島県出身。大学卒業後、NHK福島放送局のアナウンサーを務めた。その後フリーになり、司会業などに従事。結婚、出産を経て、現在は小学4年生を筆頭に、3人の子どもを育てる、名付けて「ママチュア落語家」だ。2010年、子ども達に昔話を語りたい、と学びの場を探すうちに、現在の落語教室を見つけ、見学に訪れた。そこでおそらさんが偶然出会った講師、隅田川馬石師匠は、おそらさんが以前訪れた福島の落語会で「落語って面白い！」と感じた落語を演じていた、その人だった。そんな運命的な出会いを経て入会。現在は、半年に1度の発表会、単発の落語会などの出番に向けて、稽古に励んでいる。

品川亭ゆう笑さんは、現役の中学生落語家。所属する陸上部の部活動紹介で、コントを披露する機会もあったとか。落語以外にも、笑いには一家言ある中学2年生だ。

落語と出会ったのは、2010年。おしゃべりが好きで、にぎやかな子どもだったゆう笑さんに、「紫薫子の会」※の落語教室を勧めたのは、母の志のぶさんだったという。そこで桂右團治さん、古今亭ちよりんさんに師事した。情報収集のため、HDDレコーダーに落語番組を録り溜め、動画サイトでプロの落語家の動画を見て研究している。21世紀の落語少年は、コツコツと積み重ねて、現在の持ちネタは約20にまで増えた。

ところで落語家は、どうやって練習しているのだろう。特別な暗記のコツなどはあるのだろうか。

「とにかく練習をします。」きっぱりとおそらさん。自転車に乗りながら小声で練習したりも。緊張を追い払うよう数をこなすという。

ゆう笑さんは、「自分が江戸の長屋にいて、本当にご隠居さんと話していると思って演じることが大切。そうすれば、お客さんにも人物が見えてくるんです」。演じ手が世界に入りこみ、お客さんを引き込むように演じることが、落語家の腕の見せ所、それを目指して稽古をしているという。笑いに厳しいお客さんの反応は何よりの先生になるのだそうだ。

「練習に行くのが嫌な時もあったけど、周りの人に『絶対行け』って言われて。そのおかげで、発表会で披露した時は、『今まで練習してきてよかった』と思えた」。とゆう笑さん。

築地の落語会。山遊亭くま八さんの前座で出演。

@ 忘れられない言葉

元々、おそらさんは「話す」ことにコンプレックスを抱いていたという。きっかけは、幼稚園の年長の時に先生に言われた「さとこちゃん（おそらさんの本名）は、恥ずかしがり屋だね」という言葉だ。何気ない言葉だが、生来の負けず嫌いの少女の気持ちを奮い立たせた。「話すことが上手になりたい」。それが、いつしかアナウンサーになりたいという夢に、後のキャスターや司会業へとつながった。近年では故郷で落語会に出演し、旧知の人々にひと味違った自分を披露する機会をもつこともできた。

「今、私の落語の一番のお客さんは、3人の子どもたちかも。発表会前には、お風呂の中や、家事をしながらもお稽古します。子どもには難しい内容も、仕草を大きくしたら、すごく笑ってくれたりして。今後は、子連れでもっと落語を楽しめる会をやってみたいですね」とおそらさんは新たな夢を語ってくれた。

故郷の「ふくしま素人落語の会」での高座。

一方、ゆう笑さんにも印象に残る一言があるという。初めて自分の落語を聞いた友達から言われたのが、「おまえの面白さって、これなんだな」。人を笑わせる楽しさはもちろん、落語を聞いたことで、ゆう笑さんの中にあった面白さを見つけてくれたことがとても嬉しく、忘れられない言葉になった。

落語と出会ったことで新たな魅力を開花させた、おそらさんとゆう笑さん。これからもそれぞれの方法で落語に向き合いながら、周りの人へ明るい笑い声の輪を広げていくにちがいない。そんな温かな笑顔に出会いに、落語会に足を運んでみてはどうだろうか。

※「品川区文化遺産継承事業 紫薫子の会 にほん伝統文化体験教室 和守プロジェクト」

お江戸から未来まで。芸の道は続きます！

Information

おそらさん出演情報
「キャナリー落語会」
12月26日（土）11:30 開演
場所：お江戸両国亭

おそらさん＆ゆう笑さん
今年もポレポレECOまつりに出演!!
「ポレポレ寄席」
11月15日（日）1回目:13:30～
2回目:15:00～
場所：こらぼ大森

4面のご案内

★ ひと
まちで出会った、頑張っているひとの素顔に迫ります。次はあなたかも…？

vol.44 2015年8月 **小林 豊さん** ［画家］
vol.43 2015年5月 **草香もえさん** ［日本中医食養学会常任理事］
vol.42 2015年2月 **大高 真さん** ［大森山王合氣道教室 代表］
vol.41 2014年11月 **菊地真紀子さん** ［合同会社VALN代表社員］

バックナンバーはウェブで！ www.oomori-cafe.com

［編集後記］■あっというまの1年間。今年もお世話になりました！商店街もウィンターセールの季節！ 12月12、13日には事務所（ココランド）で、まちカフェが復興支援活動をしている南三陸田の浦産「塩蔵ワカメ」を100個限定、格安で販売します！■4面に登場いただいたお二人、身近なところに落語ができる人がいるってステキです！男女そろっての登場には秘密の理由が・・・次号をお楽しみに！（お）

[STAFF]
Publisher/ Editor in chief / Writer(3) 鵜飼 修
Advertising 江上智子
Writer 猪瀬雅子・柘植彩子(1) 山田智士(2)
Writer(4)/Proof reader 丸本文恵
Illustrator & DTP Operator 池田英子 高道智子 町田あゆみ
Special Thanks 武藤花奈 たかだあや

大森まちづくりカフェ 第45号2015年ふゆ号
［発行］2015年11月1日（年4回 季刊）
［配布］大森を生活圏とする地域に20,000部
［発行］特定非営利活動法人大森まちづくりカフェ編集部
〒143-0023 東京都大田区山王3-27-6
tel/fax：03-5935-7881 アンケートの宛先はこちら！
email：office@oomori-cafe.com
［印刷］有限会社三平印刷所
東京都品川区大崎 1-10-1☎ 03-3493-4911
Unyo! http://www.u-nyo.com/
次号は 2016年2月1日発行 予定です